



参議院与野党逆転の成果次々と

臨時国会は新テロ特措法の行方がどうなるかに注目が集まっていますが、他の法案の審議も次々と進み、参議院選で民主党が躍進し、野党が過半数をとった結果、国会の状況は様変わりし、いろいろな効果で出ています。

被災者支援法、中国残留邦人支援法は、すでに与野党の賛成で成立していますが、これらの内容は、民主党の主張が大幅に取り入れられています。薬害により発症したB型C型肝炎についても、ずっと放置していた政府与党もやっと救済の方向を取り始めています。政治とカネの問題も、1円以上の支出を公開することで合意しました。通常国会で自民党は「5万円以上」を一歩も譲らなかったことを思えば、大きな変化です。

参議院での勝利でかなり前進したものの、衆議院では与党が3分の2の勢力を占めているため、まだ難しい状況が続きます。守屋前事務次官逮捕で明らかになった防衛利権の問題も、政治家の関与はかなり濃厚ですが、なかなか解明できません。これらを打破するのは、来るべき総選挙で、衆議院でも過半数を獲得する以外にありません。皆様のご支援を期待します。

労働2法、共同修正で成立

党内で細川律夫代議士が担当していた労働2法（最低賃金法改正案、労働契約法案）は民主・自民・公明による共同修正のうえ衆議院を通過した後、11月28日、参議院で可決、成立しました。

これら2法案は先の通常国会に政府から出されたものですが、民主党も対案を準備し、細川議員が筆頭提出者となり、提案していましたが、それを踏まえ政府案を

修正したものです。

最低賃金法では、「健康で文化的な最低限度の生活を営むことができるよう」との文言を加え、明確に最低賃金の底上げを図れるようにしました。労働契約法は、基本原則に「均衡」、「仕事と生活の調和」という言葉を入れ、正規、非正規間の待遇の均衡、「ワークライフバランス」の趣旨を規定するなど、本則19条のうち7条を修正するという大修正を実現しました。参議院選前には考えられなかった大きな成果です。

いわゆる「ねじれ国会」のなかで、政府案に対し与野党の共同修正が実現したのは初めてのことであり、大変注目されているところです。テロ特措法のように理念的に対立する法案は別として、国民生活を底上げし、国民の権利を増進する法案については、与野党がよく協議し、成立させていくことが必要です。



舛添厚労大臣の隣で、修正案提案者として答弁する細川代議士（11・20 参議院厚生労働委員会にて）

鳩山法相に人権擁護法で要請

10月31日、細川代議士は、自民、公明、社民、国民新党の議員とともに、法務省を訪ね、鳩山邦夫法務大臣に人権擁護法案の提出について要望しました。この法案はかつて政府から提出されたものの、与党内の反対によって審議入りできなかったという経緯があります。あらゆる差別を禁止し人権侵害を救済するためには欠かせない法案なので、法務大臣として何とか国会への再提出をするよう要請したものです。

鳩山大臣自身は提出に前向きですが、問題は自民党内の意見集約とのことです。



法務省内の大臣室で鳩山大臣に要請する細川議員ら

東埼玉道路で要請

10月29日には、埼玉県直轄国道事業推進の要望のため、県の協議会会長である板川文夫越谷市長らと国土交通省と財務省を訪れました。東埼玉道路は、草加・越谷の東部地域を通り吉川の一部まで開通していますが、16号バイパスまでの延伸が欠かせません。この日は国土交通省事務次官、道路局長、財務省主計局長らに東埼



主計局長に説明する細川代議士と板川市長

玉道路などの必要性を訴えました。

現在、東埼玉道路の側道部分は、越谷・吉川の市境付近まで通っています。今でも、その先がないため、周辺の交通渋滞は激しく、重大な交通事故も起こっています。また、4号バイパスの渋滞解消のためにも延伸がぜひとも必要です。この日の要請では、国土交通省、財務省の両省にそういった事情を強く訴えました。

賀詞交歓会にご参加を

恒例の細川律夫新春賀詞交歓会は、下記のとおり行う予定です。一部の方には郵送などでもご案内いたしますが、細川律夫の政治活動を支援して下さる方ならだれでも参加できます。いわゆる「政治資金パーティー」ではありませんから会費も実費のみとなっておりますので、お気軽にご参加ください。

細川律夫新春賀詞交歓会

越谷会場

日時 1月5日(土)午後3時

場所 ベルヴィ・ギャザホール

草加会場

日時 1月11日(金)午後6時30分

場所 草加アコスホール

会費

男性 5,000円 女性 3,000円

細川律夫より一言

延長された臨時国会も新テロ法案や守屋前防衛省事務次官の逮捕など緊迫した状態が続いています。参院選での民意をどのように国政に反映するか、その能率が野党に試されています。私も民主党次の内閣、法務大臣とに頑張っています。